参考資料：岡山縣上道郡古都村史、『岡山市の地名』著者岡山地名研究者
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）

鉄（くろがね）村　（現、鉄）

備前が我が国第一の褐鉄鋼山であった柵原（やなはら）鉱山をもっていたので、鉄を調（その国の産物に応じて納める一種の物納税）としていた。
和銅 6 年(713)美作国に分国となり、柳原は美作に属したため、備前国は鉱山がなくなった。
やむなく美作国から鉄を買い入れてやっと調を続けた。延暦 15 年(796)になって絹か糸に代えることを許された。
その間、備前国人は総動員で鉱山を探した結果、居都郷でみつかり大いに喜んだ。その喜びのあまりこの村名を鉄村と名付け、盛んに鉱石を採掘したと書いている。

村内には明治中期ごろ採掘したとみられる廃坑跡があり、背後の野山を開拓したとき各所から鉱滓（こうさい）が発見されている。

「慶長 10 年備前国高物成帳」には、古津庄鉄村とある。

明治 22 年(1889)6 月	町村制の施行で藤井・宿・南方(現古都南方)、宍甘の 4 ヶ村と合併して古都村大字鉄となった
昭和 28 年（1953）2 月	西大寺市成立に伴い市域に編入
昭和 44 年 2 月	西大寺市の岡山市編入合併に伴い西大寺市鉄
昭和 47 年 7 月	鉄と改称

地区内を国道 2 号線、JR 山陽新幹線、山陽本線が通過しており、東岡山駅、上道駅にも近く交通の便利は良い。